

INDEX

- ① 卷頭言
- ② いこま乳児保育園50周年
- ④ あくなみ苑25周年

- ⑥ 児童施設より
- ⑫ 高齢者施設より
- ⑯ 海への里帰り
- ⑭ 夏祭り児童施設編

- ⑮ 夏祭り高齢者施設編
- ⑯ PCR検査機導入
- ⑰ 役員会報告

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

卷頭言

「影奪（えいだつ）」

理事長 辻村 泰範

以来ずっと脳裏に焼き付いているのだが、今になつて辞書を引いてみると何處にも載っていない。五〇年も経つので、否、私のことだから、いつもの記憶違いのかも。でもこの現象は古代インドから人々は意識していたようだ。



古今東西、人々は太陽や月の動きを観測して暦を考案してきた。主に農耕行事と強い結びつきがあると言われている。色々な暦があるそうだが、今では日本の暦は国立天文台がこれを管轄している。それによると、今年の中秋の名月は9月21日。旧暦の8月15日十五夜だ。里芋の収穫時期に当たるので芋名月とも呼ばれる衣かつぎの里芋を三宝に飾つてお月様にお供えする。月見が団子をお供えするところもあるが和菓子屋に行くと細長い団子におはぎを被せた特別の団子を売つてゐる。秋の餡をオハギといふのは秋の七草の萩にかけた言葉だというのだが、きつと諸説ありだ。これに対しても10月18日は十三夜、豆名月、栗名月とも呼ばれる後の月。春の臘月、冬の凍れる月影、どちらも風情は劣らないが月見となるとやつぱり秋の月。「月々に月見る月は多けれど、月見る月はこの月の月」と、節をつけて歌つて月見をしたという。大人はお供えのお神酒をいただいて盛り上がつたのもコロナのおかげで昔話になりそうだ。

ところで、満月の明るい光が空を覆うと、お月様の近くに見えるはずの星達がその月の光によつて、見えなくなつたり、見えにくくなつてしまつ。まるで月の光が星の光を奪つてゐるよう見える。これを「影奪（えいだつ）」といふ。そう教わつたのは大学で仏教学を学んでいた頃、ある先生から教わつた言葉だ。

さて明るく輝く月が、周りの星の輝きを奪つてしまうという言葉は、偉大な人や事柄が周辺の人物や出来事の正当な評価を歪めてしまうという文脈の中に出てくる例え話だつた。人物や物事をありのままに見るとすることはとても大事なことだが、しつかり見よう、しつかり考えようとすればするほど、焦点は絞り込まれ周りがぼやけてくるのは誰もが経験することだ。歴史上の人物や出来事が、後世の史家や作家によつて私たちの目を眩ませた事実はいくらでもある。キラ星のごとく、という言葉があるが星の輝きにも注目したい。そういうえば、三日月頃の星の輝きは格別に趣があるようにも思う。



平成2年春の園舎

いこま乳児保育園は昭和四十六年四月に児童福祉法による保育園として、そして三歳未満児の保育園として認可を受け誕生しました。初代園長に辻村泰圓先生が就任され、定員六十名で始まりました。同年にひめゆりバスが運行を始め、その後二代目園長に新田恵美先生が就任されました。その頃は広い園庭に二階建ての園舎、二階には職員の更衣室やバスの運転手さんの休憩室がありました。保育室からすぐに園庭に出ることのできる構造は今も変わつていません。

平成七年、三代目園長に宮本和子先生が就任、十一年もの間、温かい雰囲気に包まれた乳児保育園を守つてこられました。職員の施設間での異動が始まり、入れ替わりがあつた中でも、自然豊かな環境で伸び伸びと子ども達を育していく保育は受け継がれています。



昭和時代のプール



旧園舎の保育室

えると見違えるように明るい雰囲気になりました。そのカーペットが各部屋とホール（遊戯室）に敷き詰められていて、年に二回業者に清掃してもらうのですが、順番に子ども達を移動させながら暗くなるまでかかつっていたのが園内の大掃除の様になつていました。二階も保育室を二つ作り、トイレも設置されました。



創立30周年

平成十三年には市制三十周年を迎えた生駒市と共同企画し、当時の市民ホール（現たけまるホール）で、保育園の園歌を作つてくださいました。絵本ライターの中川ひろたかさんによるコンサ

「メタセコイアに見守られて」

いこま乳児保育園 園長 喜多 由希子

平成一〇年には、生駒市より委託を受けて、子育て支援「てくてく」を二階の一部屋で開始し、地域の親子の安心できる場所となりました。今では拠点事業に変わり、地域にも出向いて親子の遊びを提供する出張保育も行なうようになりました。

この頃園舎は残したまま、内部の改築が少しづつ行われていきました。園内の全部のタイルカーペットを明るい色に張り替がれています。

ートを開催し、創立三十周年のお祝いのイベントとさせて頂きました。さらにコロナ禍の今では考えにくいですが、保育園の園庭にお世話になつてている方々、退職された職員の方々をお招きして祝賀パーティーをして樂しいひと時を過ごしました。

平成十八年には四代目園長として家治圭子先生が就任されました。私はこの時、あすなろへ二年間異動し、平成二十年から主任として戻り、家治園長先生の下、働くようになりました。以前から育児担当制を始めようと考えていたようでしたが、平成二十一年より本格的に開始するようになります。現在も継続出来ているのも、様々な方にアドバイスを頂き、家治園長を始め、職員全員がこの方法が子ども達一人一人をさらに大切に育えていけると信じてきたからだと思います。

平成二十三年には四十周年を迎えて、大きな保育園の看板を作成しました。平成二十五年には園舎の老朽化に伴い、園舎を取り壊し、同じ場所に建て替えをすることになりました。それに

よつて、工事期間中、桃李館のプレイルーム・あすなろ館・現あすなろの二階と三ヶ所をお借りして分散保育を行つていました。園庭やリズム遊びをするような広々とした場所はありませんでしたが、散歩に出るたびに、工事車両を見ることが出来、子ども達には「はたらくくるま」の歌詞の中のような毎日でした。それとは裏腹に、旧園舎が取り壊される時は寂しさが込み上げてきましたが、あつという間に新しい土台が出来、鉄骨が組まれ、外観が見えてくると、新園舎で過ごせる時が待ち遠しくなりました。その年の卒園を新園舎で迎えられるのを楽しみにしていましたが叶わず、平成二十六年五月に竣工式を行うことが出来ました。真新しい靴箱・遊戯室・保育室の中で保育園生活がスタートしました。

あれから早七年以上の月日が流れ、旧園舎を知らない保育士が増えてきました。記憶が上書きされていく中で、今年度より私が園長に就任させて頂くと同じくして保育園が五〇周年を迎えました。設立当初からの乳児園長ではありますが、どうか皆様

古いアルバムやネガフィルムなどを透かして見るたびに、「これ私やー」、「先生、わかれー」と複雑な感想が飛び交つていました。その中で、園庭のメタセコイアの木がいつから植えられているのかと話が盛り上がり、写真を見直すのですが、映つてないなかつたり、まつたく姿が違つたりで本当にその木なのかが判断がつきませんでした。二〇年以上勤めていても知らないことがまだまだあることに驚きましたが、改めて乳児保育園の作り上げてきた歴史が奥深いものだと認識しました。

これまで多くの方々にお世話になり、本来であればお一人ずつお礼を述べるべきなのですが、昨今のコロナ事情でご招待できる場もなく、この紙面上でお礼に代えさせて頂くことをお許しください。乳児専門の保育園であり続ける意味をしっかりと捉え、子育てに一生懸命な保護者の方々、地域の方々に選ばれる温かで明日も行きたいなるような保育園を目指して心新たに邁進していく気持ちです。若輩者の新米園長ではありますが、どうか皆様

のご支援、ご指導よろしくお願ひいたします。次の一〇年、二〇年先も子ども達にとつていい環境でありますように、園庭の守護神メタセコイアさん、お守りください。



令和3年子ども達と一緒に





『あくなみ苑25周年』に寄せて

老人総合福祉施設 あくなみ苑 施設長 田中 将史

「老人総合福祉施設あくなみ苑」が、今年の12月1日をもつて25周年を迎える。私自身、開設当初のこととは、ほとんど記憶がない。あくなみ苑の最初の新人職員として採用され、右も左も分からず、ただ毎日、業務を覚える事が必死で、お年寄りに迷惑をかけないよう一生懸命に介護していたよう思う。当時のことを三室園の西谷施設長に聞くと回廊型になつており、認知症対応の先進的な施設として多くの見学者が来苑されたとの事だつた。開苑当初は最先端の施設であつても、世の中の情勢や我々高齢者福祉に携わる者への社会的 requirement が変化するに連れ、ソフト面はもとよりハード面も変化していつた。現在の特別養護老人ホームにおいてはユニット型の施設が主流であり、その要因になつたのが、認知症についての理解と対応の仕方がこの25年で大きく変わつていつた事にあると思う。またソフト面においても2000年から始まつた介護保険が大きく影響している。「措置から契約へ」という事で利用者やその家族の意識も変わつてきたようを感じる。

意識が変わるという事は、当然我々に対する要望や要求も変わつていき、契約である以上、契約書やケアプランに書かれたことは必ず行わないといけないことは当然である。また、介護保険の導入のもう一つの目的であつた福祉の市場開放も大きな影響を与えたようと思う。民間の営利法人等が我々の業界に参入したことで、競争原理が働き、より質の高い介護サービスを提供しなければ利用者やその家族に選んでいただけないと当たり前のようと思えるようになつた事は大きかつたと思う。そういう意味では高齢者福祉に携わる職員においては良かつたと感じる。



事業団」がその運営を引き継いだ。法人が変わることは、今の私の立場であれば色々な面で大変なことだと理解できるが、当時、一指導員（今は生活相談員）であつた私にはその大変さは知る由もなかつた。大きな混乱もなくスムーズに移行できたのは、三室園組合の関係者や辻村理事長を始めとする役員の方々の多くなるご尽力を賜つたおかげである事は間違いない。以来、私を含めて三代の施設長があくなみ苑の運営を担つてきた。赤井元苑長は運営法人の変更と介護保険が始まつた年、そして就任最初の年ということもあり、大変苦労されたよう思う。続いて高田前苑長は歴代苑長の中で最も長く勤められた苑長である。時代や制度に翻弄され、中々地に足のついた運営ができなかつたあくなみ苑を一から立て直した苑長でもある。今ある宝山寺福祉事業団としてのあくなみ苑の土台を築き上げ、私にバトンタッチしてくれた。理事長はもとより、総務部長をはじめとする法人本部のご指導のもと三室園組合や地域の方々、そしてあ

くなみ苑を利用していただいているご利用者やそのご家族とのご縁を大切にして、職員それぞれがそれぞれの立場で、今のあくなみ苑を支えている。また。私の知つてゐる限りでも多くの方に気にかけてもらつてきた。設置主体が西和七ヶ町であり、二つの社会福祉法人が運営してきたのだから、なお更だと思う。施設自体は25年も経ち老朽化が進んでいるが、多くの諸先輩のおかげで今がある。そのご縁に感謝し、今後も地域に頼られるあくなみ苑を職員全員で力を合わせて守つていきたい。



児童施設より

6p

いこまこども園

7p

いこま乳児院
仔鹿園

8p

奈良県発達障害者支援センターでいあー
児童発達支援いっぽ

9p

平城児童センター
極楽坊あすかこども園

10p

愛染寮
いこま乳児保育園

11p

こども支援センターあすなろ
あすかの保育園

心身を育む自然を生かした保育

いこまこども園

保育教諭 坪井 美咲

いこまこども園では、自然に多く触れ合えるような保育を行っています。

4歳児年中クラスでは、春からゴーヤ、ひまわりを種から育てました。種を植えてから、いつ芽が出てくるかと心待ちにしながら毎日観察していました。芽が出た時には、「出てきた!」「ちっちゃくてかわいい!」とみんなで大喜びしていました。「水やりしたい!」とお世話に積極的な子どもが多く、交代で水やりをがんばってくれました。ひまわりなどの背が高くなったり、葉の形が変わってきたりするのに子どもたちはいち早く気づいて、とても嬉しそうに保育教諭や友だちに知らせてくれました。

子どもたちが大切に育てたひまわり、ゴーヤはともにすくすくと育ちました。たくさん育ったゴーヤは給食の夏野菜カレーに入れてもらい、みんなで食べました。ゴーヤ独特の苦みを感じている子どもたちもいましたが、自分たちで育てたということもあって最後までしっかり食べていました。

また、夏の暑い時期には幼稚組の子どもたちは

近くの宝山寺川へ遊びに出かけます。プールの水に比べて川の水の冷たさを感じたり、サワガニを探したりしてのびのびと楽しんでいます。1年ぶりの川遊びに、恐る恐る川へ入っていた子どもたちも何度も何度も川へ出かけるうちに慣れてきた様子で、浅瀬に寝転んで全身で川の流れや心地よさを感じていました。

他にも、園庭にたくさんの虫たちが集まっています。子どもたちは手持ちの図鑑を見ながら何という虫かを調べたり、虫かごに捕まえて観察してみたりしています。年長児が捕まえて育てた幼虫が蝶に羽化した時は、年中クラスの子どもにも見せてもらい、その後、みんなで羽化した蝶を自然に返しました。子どもたちは、貴重な瞬間を目の当たりにし、目を輝かせっていました。

他にも園では各年齢に応じて自然を生かした遊びや学びをすすめています。これからも、自然に囲まれている地域性を生かして、のびのびとした保育を行っていきたいと思います。



宝山寺川で川遊び



大きなゴーヤができたね



畑に水やりしましょう

コロナ禍の乳児院

コロナ禍も2年目。一般の家庭のお子さんと同じく、乳児院で過ごす子どもたちも、それまでにあった、当たり前の事やお楽しみがない生活を送っています。例えば、夏の一泊旅行はもとより、遠足や味覚狩り、近くの公園への散歩、保護者との面会も窓越し面会に制限されました。職員である私たち(あーちゃん)と一緒に味わう昼ごはんやおやつでさえ、職員はマスクを外せない為、介助のみとなっています。家庭では、家族の顔はマスクなしで見れますが、乳児院では感染防止のため、子どもの前でマスクを外すことはありません。いつも一緒にいる大人の表情や口の動きなどを見せられないことによる子どもへの影響は?というのはコロナ禍の大きな心配です。

考えると、何一つ良い事のない毎日ですが、子どもたちは元気です!パワフルです!!おかげさまで、風邪に罹ることも少なく病院通いのない事は幸いです。そして、お出かけは出来ずとも目の前は自然がいっぱいです。でこぼこの山道を小さな足で歩いて見つけるキノコやアリやダンゴムシ。カタ

いこま乳児院

保育士 窪田 多貴子

ツムリや蝉の抜け殻。沢に入ってサワガニを見つけたり、流れる水の冷たさを感じたり。行動範囲は限られていますが、毎日自然の中で、外遊びを楽しめることは感謝です。この環境を生かして、楽しめる事を探して、工夫をして、子どもたちと共に少しでも潤いのある生活を送れるようにと思います。



カニさん、いるかなあ

あつという間に

新しい子どもを迎えて、新しい職員体制で始まった4月。保育室から子どもの泣き声が聞こえ、同じように先生の声も響いています。全日保育が始まった5月。少しずつ泣き声が笑い声に変わっていきました。例年はない早い梅雨入りをした6月。みんなで遊ぶプラザ遊びでは子ども同士で追いかけっこを楽しむ姿が増えました。プール遊びが始まった7月。プールバックを嬉しそうに抱えて登園する子どもたちがいました。プール遊び本番の8月。水の感触が気持ちよくて笑顔が弹けます!

こうして振り返ってみると、あつという間の5ヶ月でしたが、子ども達はどんどん変化を遂げていました。お母さんとの別れに泣いていた子どもは、笑顔で手を振れるようになり、何も食べずに給食の時間を過ごしていた子どもは、自分から食べるようになっています。部屋の隅で俯いていた子どもは、きらきらの目で遊んでと駆け寄って来てくれます。子ども達の変化を見ていると、毎日背中を押されているように感じます。一人でできるよ

仔鹿園

副主任保育士 貝田 智子

うになるにはどうすれば良いか、クラスみんなで楽しく遊べるようにするにはどんな遊びが良いか…、職員みんなで考え方夫し、子ども達に向き合う中で、その子の「できた!」にたくさん遭遇できればと思っています。



たのしいプール遊び

新しい取り組み:オンラインでの講演会

奈良県発達障害者支援センターでいー

主任 大西 和幸

コロナ禍が長引く中、様々な活動においてオンラインがフォーマルな形となっていました。でいーでも会議や少人数の交流で使用することはありましたが、今年度は新しい取り組みとして、たくさんの方が参加される講演会をオンラインで開催することになりました。8月21日「発達障害理解啓発講演会」を「ハイブリット形式（現地開催とオンライン開催の併用）」で実施しました。オンライン参加80名、現地参加17名と合計100名近くの方々が参加されました。初めての取り組みだったので、どんなトラブルが起こるのか予想ができず大変な一日だったのですが、無事に終わることができました。終わって思ったのは、感染症対策で仕方なくとはいえ、現地会場の様子を自分たちがリアルタイムでネット発信するという数年前までは考えられなかつた方法を実施していることを実感しました。参加者にと

っては気軽に参加できるので、コロナが落ち着いても一つの方法として確立されていくと思いました。



「葛藤を繰り返しながら…」

コロナ感染を防ぐ為には、リスクを出来るだけ減らした方が良い。当然の事ではありますが、でも今まで行ってきた事をしないことで新たなリスクも生まれます。前年度の後半は特にこの、両極面の事に、施設の中で、そして個人的にも葛藤してきたように思います。

子ども達の支援はもちろん、保護者の支援も大事な役割だと考えているので、三密を避ける為行事を中止したり、縮小する事で聞こえてくる保護者のご意見、特にデメリットのご意見には考えさせられる内容もありました。職員間で何度も検討を重ね、この4月からは幾つかの行事を復活させました。母子通園や保護者の勉強会、家庭訪問など。秋には芋掘り等の遠足もする予定です。この夏は、学校や幼稚園では中止している水遊びも実施しています。大はしゃぎです！保育士も思わず笑顔になってしまうくらいの喜びようです。親同士の横つながりや情報交換も少しずつ実現出来て、行事に参加して良かった、という声も頂いたり。お弁当やおやつも一緒に食べています。距離を取る、パーテーションを置く、換気をするなどの対策はしっかりと行いつつです。お友達が食べているのを

児童発達支援いっぽ

児童発達支援管理責任者 長野 智子

見て、「ぼくもお弁当からっぽにするぞ～」とか。「このお菓子美味しいね～」とか。言ったりジェスチャーで表現している子もいます。

何が正解なのか、よくわかりません。ご指摘を受ける部分もあるかもしれません。感染予防をきちんとする意識は決して忘れず、そして葛藤もしながら、子どもや保護者、そして職員の一日一日を大切にする為に、今年度後半も施設の力を結束していきたいと思います。



「自然の中でブルーベリー狩り!!」

八月二十二日に小学生のサークルの親子活動で「あおはにブルーベリー園」でブルーベリー狩りを行いました。親子活動は年に一回実施し、従来は野外自炊を行っていましたがコロナ禍の状況なので野外の活動に変更しました。

不順な天候が続いており、参加者は予定より減りましたが三十五名の参加がありました。

ブルーベリーはジャム、ジュースやスイーツなどによく利用されていますが、生で食べる機会はありませんように見えます。

ブルーベリー園から農薬を使わずに自然そのまま育てており、完熟の濃い青色の実は特に甘いとの説明がありました。

山の斜面に植栽されていましたが、果樹が低いので、児童でも簡単に摘むことができる青色の甘い実を選んで心ゆくまで味わい、自然の中で楽しい時を過ごすことができました。

平城児童センター

センター長 徒徳 おさむ

今後とも家庭ではなかなか体験できない活動を子どもたちの意見を取り入れながら行つていきたいと考えています。



ブルーベリー狩り

認定こども園に移行して

四月からこども園になり、早くも半年が経とうとしています。四月に入園してきた子ども達は、初めての環境になかなか慣れず、戸惑いも見られましたが、今では笑顔で保護者と離れられるようになりました。

日中の活動は、一つ一つにしっかりとねらいを持って取り組めるように意識することで、毎日様々な経験を積んでくれています。また、給食では、入園当初全く野菜が食べられなかった子どもも、周りの励ましもあり、少しずつ食べられる量が増えてきており、成長が伺えます。

こども園になり、生活スタイルが二つに分かれ、はじめは給食後に降園準備をする幼稚園部の子ども達に「なんでもう帰るの?」と不思議な様子でしたが、今では「○○くん、○○ちゃんまた明日ね。」と優しく声を掛ける姿も見られるようになりました。

保育室を出た幼稚園部の子ども達は、お迎えまでホールや園庭遊びをしているのですが、その場では異年齢での交流があり、中には手紙交換をし

極楽坊あすかこども園

保育教諭 古城 祐佳

たり、一緒に三輪車に乗ったりして仲良く遊ぶ姿が見られ、微笑ましく思います。新型コロナウイルス感染症により、思うように出来ない事も多々あると思いますが、一日を通して素敵なお関係をいつまでも築けていけるように、私たちも日々工夫していきたいです。



「前期を振り返って」～もはや、コロナと共に…

愛染寮

保育士 仲野 絵美

今年度もコロナと共に新年度が始まりました。3月に卒業式を終えた新中高生達は、4月になり新しい制服に身をまとい不安と期待の面持ちで入学式に出席しました。他の子ども達も1つ学年が上がり顔つきが頬もしくなったように思います。

学校では、時差登校やリモート授業が定着しつつある中、昨年度実施されなかった行事が今年度はどのような形で実施されるのか等、不確定な部分も多々あります。

また、子ども達の通う学校でコロナ陽性者が出了と連絡が入ることも何度もありました。幸い入所児童から陽性反応は見られませんでしたが、いつ、どのような形で陽性者が出るのかが分からぬ状態で日々を過ごしていました。

そんな中、4月からPCR検査を開始することになりました。毎月実施することで入所児童やその保護者、職員の安心安全な生活に繋がっていると思います。

昨年度は模索しながら寮での生活や行事を考えていましたが、今年度は昨年度に引き続き、食堂利用はホーム別に時間差で入っています。研修に参加した職員から食事時が一番感染するリスクが高いという報告もあり、食堂だけでなく各ホームでもパーテーションを利用する等、少しでも接触を減らす工夫をするようになりました。

行事は制限がある中で子ども達が楽しめるように、感染対策を徹底した上でホーム別に実施したり、リモートを利用して他ホームと繋がったりする等も試みました。

12歳以上のワクチン接種も始まろうとしていますが、全国の感染者数は減るどころか増えるという予断を許さない状況が続いています。

まだまだ課題は沢山ありますが、子どもも職員も一丸となってコロナと向き合っていかなければと思います。

1年間の出向を終えて

いこま乳児保育園

保育士 田村 佳奈子

私は去年1年間、いこまこども園に出向させて頂きました。乳児保育しか経験のない私にとって、幼児クラスをまとめていく保育力と運営の仕方について戸惑いもある中、こども園の先生方に支えてもらしながら学ばせて頂きました。乳児保育園を卒園していく子どもの成長を感じることができたり、保護者の方々との再会があつたりと嬉しい日々を過ごす中で、赤組の子どもたち一人一人のさらなる成長や友達との関りが深まっていく様子を目の当たりにし、子どもの生きる力・耐える力・喜ぶ力を傍で感じることが出来ました。

私は今、2歳児を担任しています。0歳児で担任していた子どもたちなのですが、久しぶりに出会うと見違えるかのような成長ぶりを感じました。幼児になると自分で身の回りのことをする機会が増えていきます。来年度には幼児クラスに進級していくことも見越して、どのような橋渡しやサポートが出来るのかを念頭に置きながら、2歳児の今を大切に向き合い、一人一人の思いに寄り添える保育士でありたいと思います。日々の丁寧な関わりの積み重ねが大きな集団に入った際に、子どもたちの持つ力の後押しになればと願っています。

またコロナの状況でも、どうしたらより良い保育が出来るのか、感染防止のためという一面的な視点に流されて諦めてしまうのではなく、色々な制限のある中で今何が出来るのかをみんなで話し合い努力し続けようと思います。そしてコロナが収束した後で、そのことを振り返ることが出来ればいいなと思います。どのような状況であつても、子どもたちのために大人が連携を取り合うことを大切にしていきたいと思っています。



せんせいの背中、順番待ち

半期を振り返って 小さな進歩・大きな喜び

あすなろは、子どもの発達に応じたクラスがありますが、今年わたしは幼稚園や保育園と並行通園しているクラスに配属になりました。4月当初は、自分の気持ちのままに行動する子どもが多く、毎日がワイワイガヤガヤ。玩具をめぐってのバトルは日常茶飯事です。1日が終わると、どつと疲れが出る日々でした。

でもちょっとずつ姿が変わってきてているのです。椅子に座ることが苦手だった子どもが朝や終わりの会で着席できるようになってきたり、「玩具貸して」に少し悩み「後で」と言えたり「いいよ」と手渡したり…その姿を見て感動!他にもあります。牛乳が苦手で味見から始めたところ、今ではコップ1杯の牛乳を飲んでドヤ顔です。もちろん、一進一退。その日できたことが、翌週もできるとは限りません。また、コロナ禍で制限された活動が今なお継続中です。それでも、少しずつ活動に見通しを持って楽しんでいるな、手応えを感じているな、

こども支援センターあすなろ

保育士 杉 賀子

と思う場面はたくさん見られるようになりました。

子どもの力は無限です。そのパワーを私のエネルギーに変え「がんばります。エイエイオー」と、出勤している今日この頃です。



『0・1歳児のこどもたちと一緒につくる環境』

あすかの保育園

保育士 濱口 沙夜香

今年度0歳児クラスと1歳児クラスの間にある収納スペースを大改造しました。一続きの空間になつたことで、物の出し入れがスムーズになり、風通しもよく、おひさまの明るい光が差し込むととても心地よい保育室になりました。保育士もお互いのクラスの様子が見えやすくなり、声を掛け合い連携がとりやすくなりました。自然とお互いのクラスを理解できることはとても居心地がよく、これがこどもたちの安心感にも繋がっていると感じます。

日々の姿からこどもたちが『あそびたい!』と思える玩具の置き方や『ほっこりできる』場所づくりなどを話し合う中で、今まで大切にしてきた『こどもたちの思いから一緒に環境をつくること』により重点を置くことにしました。0・1歳児クラスの保育室を行き来し、好きな場所を自分で選び、あそびたいことを自分で決めてることで、その喜びと安心感から落ち着いてあそぶ姿が見られます。まだまだ小さいこどもたちですが思いはしっかりと持っています。泣いて、笑って、好きなことには夢中になり、『これが好き』『こうしたい』『これはイヤだ』などと全身で伝えています。この思いを丁寧に受け止め、こどもたちと保育士が一緒に生活やあそびを作っていく

ことで、こどもたちは主体的に生き生きと過ごしています。この経験は『お友だちに寄り添う優しさ』『自分で物事を考える力』に繋がります。

卒園する頃に、こどもたちが意欲的、主体的に、自信を持って過ごせるよう、0・1歳児の今を大切に一人ひとりの思いをしっかりと受け止め、安心できる環境をつくり、たくさんの笑顔が溢れるようにしていきたいです。



高齢者施設より

12p

- デイセンター寿楽
- 特別養護老人ホームあくなみ苑
- 梅寿荘居宅介護支援センター
- 生駒市梅寿荘地域包括支援センター
- 特別養護老人ホーム延寿

13p

14p

- 梅寿荘デイセンター
- はあとぽーと梅寿荘
- 特別養護老人ホーム梅寿荘

モフトレ始動!

令和3年4月からの介護報酬改定に伴い、デイセンター寿楽では新たに個別機能訓練を実施する事となりました。そこで導入したものが「モフトレ」です。

株式会社Moffが開発したモフトレは、ご利用者の手足にモフバンドと呼ばれるモーションセンサーが内蔵されたバンドを装着しながらトレーニングを行うのですが、装着した人の動きがモニターを通して見る事ができる為、ご利用者や職員はトレーニングの状況を見ながら楽しく個別機能訓練を実施することができます。トレーニングの内容は口コモ予防トレーニング(運動機能等の低下予防)や、入浴時やトイレ時に必要な動作を想定した日常生活動作トレーニングがあり、その内容は20種類以上あります。その中から、あらかじめ行った身体測定の結果や、居宅訪問から把握したニーズから機能訓練指導員が訓練プログラムを作成します。さらに、訓練した時間や結果などの情報は端末に記録されて行き、活動結果をご利用者やご家族に「見える化」することができます。

デイセンター寿楽

主任生活相談員 中島 淳

導入時に「簡単に楽しくトレーニングができる」と聞いてはいましたが、システムを把握するのに少し時間がかかるてしまい、しばらくは職員同士で勉強会をしたり、参加を希望して頂いたご利用者と一緒に試行していましたが、8月から正式に個別機能訓練を開始する事ができました。

世の中の新型コロナウィルスは依然として収束する兆しはなく、変異株が出てくる度に感染者数が増えている状況で、閉塞感を感じずにはいられませんが、デイセンター寿楽では感染防止対策を強化しながら、楽しく機能訓練を行っています。



「笑顔溢れる中庭カフェ」

世間ではコロナウイルスがまだまだ猛威を振っていますが、我があくなみ苑でも行事や催し物の縮小を余儀なくされている状態です。そんな中、少しでもご利用者に楽しんで頂けるように、アクティビティ委員会が中心となって中庭で定期的にカフェが開かれるようになりました。カフェと言っても簡単なお菓子とジュースのみの提供で、1時間程の短時間で行われています。特養のご利用者を6名程の少人数でグループ分けして6月から月2回のペースで行い、現在までに4回開催されました。8月は暑い為一時中断していますが、9月から再開予定となっています。また、開催には外部のボランティアの受け入れが難しい為、有志で職員が集まってカフェの準備を行ってくれています。

開催日は中庭に机と椅子、カラフルなパラソルがセッティングされます。また、音楽も楽しんで頂けるようパソコンも準備されます。懐かしい音楽をBGMに聴きながらゆったりとお菓子とジュースを召し上がって頂く時間は、参加されたご利用者

特別養護老人ホームあくなみ苑

リーダー介護職員 宮北 典子

に好評でした。お菓子を食べ終わる頃になると、ご利用者がBGMの懐かしい音楽を口ずされます。それに合わせて他のご利用者や職員も歌を唄い、気づけば皆笑顔の合唱が始まります。手を叩いたり体を揺らしたりして笑顔で音楽を楽しめているご利用者を見ると、職員も嬉しくなり次回の開催を待っておられるご利用者にも是非笑顔になって頂きたいと、モチベーションも上がります。

この中庭カフェを継続する事で、例年通りの行事が行えず「さみしい」「つまらない」と思っておられるご利用者に少しでも楽しいと思って頂き、笑顔になって頂く事が私たちあくなみ苑職員の願いです。



「前進」

居宅介護支援センターでは、ご利用者やご家族が望む生活、自分らしい生活をどう実現していくかを意向を確認しながら考え、多くの関係機関と連携しながら支援を行っています。

現在、一人のケアマネージャーは30名前後の方を担当させていただいている。生活環境や病状を含む身体状況、家族状況が異なる中で、どの様に支援を行えばよいか悩むこともあります。幸いにも当事業所には8名のケアマネージャーが

梅寿荘居宅介護支援センター

センター長 斎藤 洋子

所属しています。年齢、経験年数や人としての価値観や視点が違う仲間達と共に検討しあえることは強みであると思います。

それぞれの事例を通しての学びや、研修、多職種との連携を通して個々のレベルUPと、より良い支援を行うために積極的な意見交換、情報共有ができる環境つくりに努め、ご利用者、地域から信頼して頂ける事業所に向けて進んでいきたいと思います。

支え支えられる地域づくりのために

昨年度から生駒市が進めている「100の複合型コミュニティづくり」。

初年度は6つの自治会が参加して、地域課題解決に取り組んだり、住民同士が支え合う仕組みづくりを、それぞれの地域の特色によって住民の皆さん自らが計画、実践されており、私は地域支え合い推進員としてこの活動を応援しています。

3年計画で始まった活動も2年目に入り、西菜畠町では自治会館横に資源回収ステーションを設置して住民が集まりやすい環境を整えられたり、夏休み中には「子どもあそび塾」を開催され、環



新しい視点

この4月より延寿に理学療法士が一名配属になり、特養の機能訓練士として日々奮闘しています。10年ほど病院での経験があるので、すぐに職員やご利用者とも馴染み、今では毎日特養の各フロアを回りご利用者の様子を観て、身体の状態の確認や生活リハビリの実施、ご利用者が自身で出来るようなリハビリプログラムを作成したり、介護職員に生活リハビリなどの実践指導をしてくれています。さらに現場での実践だけでなく、毎月のカンファレンスの参加や個別機能訓練計画書の作成など、まだ5ヶ月しか経過してませんが、テキパキした仕事っぷりは素晴らしいものであります。専門的な視点から意見を提案してくれるので、介護職員も勉強になる事が多くあります。例えば、リクライニング車椅子に座っているご利用者の姿勢を見て、身体のねじれや傾きがあれば、どこにクッションを入れると

特別養護老人ホーム延寿

特養介護副主任 大平 達也

本人の負担が軽減出来るか?身体の傾きはどこの機能低下が原因なのか?といった内容や、転倒の危険性のあるご利用者と一緒に歩く時に、その人の歩き方や姿勢を見て、介助者の手の添え方や、立つ位置、力の入れ方など、様々な提案をして介護職員に普及してくれています。

理学療法士の加入により、昨年度まで頭を抱えて悩んでいた課題が専門的な新しい視点によって、少しずつ改善に向かい始めています。介護職だけで解決するのではなく、他の職種とも手を取り合いしっかりと連携を図り、今後も取り組んでいきたいと思います。



もう一步前へ

年度の折り返しの9月、夏祭りを楽しんで頂いた私たちは、その余韻も束の間、ご利用の皆さんのお祝いの準備に励んでいます。慣れない足腰の使い方をして悲鳴を上げています。

さて、令和3年度の上半期、梅寿荘デインセンターでは以前から取り組んでいます、屋外歩行や運動機器を使用した運動などの機能訓練についての強化、定着を図る期間がありました。まだまだ至らない事も多くありますが、成果が出ている事もあります。強化を図る以前と比べ多くの方に身体を動かして頂く機会を持って頂けています。また、自発的に運動をされる方も増え、精神面の活性化も図れていると考えています。更に、利用当初は車椅子での移動をされていた方が、支えることで歩行が可能になっていることなどです。

私たちはこの歩みを止めることなく、次のステージへ踏み出したいと思います。より満足して頂き、ご利用者

梅寿荘デインセンター

生活相談員 中井 耕大

の在宅生活を支えていけるよう尽力してまいります。

実施する内容の見直しや手の行き届いていない方々への支援、その成果や情報の共有・発信の充実など課題は山積みです。職種を問わず、これまで共に邁進してきた職員はもちろん、今年度から新たに仲間となつた職員も一丸となり前進していきたいと思います。



今できることを

昨年の年明けからのコロナ感染は未だ収束することなく、益々猛威を振るっています。私達ヘルパーは感染予防に細心の注意を払い訪問をしています。三密防止のため、毎週実施していたミーティング、毎月の集団での研修を中止してきました。しかし、できないとあきらめるのではなく、こんな状況のなかででもできることを考えていかなければ発展はないと、ヘルパー同士の交換ノートの作成、ケア内容の変更は都度一斉メールで発信、研修は毎月資料を配布しレポート作成、少人数に分かれてのビデオ視聴と形式を変えて実施しています。

先日、梅寿荘の夏祭り実行委員会があり、前年は中止になった夏祭りを実施するのか、安全に実施するにはどうするのかを考え、規模を縮小し、時間帯をお昼に変更して実行することになりました。当日は、提灯の飾りつけ、食べ物屋台を設置して祭りの雰囲気を十分

はあとぽーと梅寿荘

主任サービス提供責任者 金田 智子

に出し、ご利用者の笑顔を見ることが出来ました。最後に、各フロアをまわり、職員で炭坑節を踊った時は、ご利用者が手拍子をし、一緒に手踊りをしたり、身体でリズムを取るなど大変盛り上がりいました。

できないこととあきらめず、今できることを常に考えることの大切さを痛感しました。今後も、まだまだコロナ禍での生活は続きそうです。安心、安全な介護を目指し、いろいろ工夫をして訪問させて頂こうと思います。



職場ぐるみで実践するOJT

梅寿荘では、この1年間で新卒、中途採用を含め7名の職員が入職しました。年齢も介護経験も様々な新任職員の育成と定着を目標に、施設全体で職場研修の取り組みをしています。

5月は、社会人、組織人（チームの一員）、職業人の自覚を身につける第1歩として、各部署の職員が講師となり、1日かけて施設内で新任研修を行いました。また実際に働く現場では、先輩職員が一定期間マンツーマンで一緒に業務を行い、振り返りシートを活用し、業務習得の度合いや疑問、困りごとがないか確認しながら、精神面でのサポートができるようにしました。委員会活動や行事の実行委員会にも先輩職員と参加することで、ご入居者の自立支援や日常

特別養護老人ホーム梅寿荘

主任介護支援専門員 黒川 美穂

の楽しみを作るというサービス向上への取り組みの重要性を実践を通して学べるようにしました。

これらの取り組みについては、毎月2回実施しているリーダー会議の中で、新任職員の育成度や様子の共有、OJT実践の振り返りや修正を行っています。新任職員を育成することは、新任職員の新鮮な目で職場を見ている率直な意見や考え方を聴ける場であり、先輩職員がこれまで取り組んできた仕事の意味や方法を見直し、新たな知識や考え方を得る機会となります。これからも次世代を担う職員の成長と組織の発展の双方を目指し、職場ぐるみでOJTを実践する体制を整えていきたいと思います。

女たちは鳥羽水族館へ…



海の似合う男たちの、哀愁漂う背中…



宿泊するホテルは目の前が海水浴場
ということで、普段は水平線を見る事
が出来ない子どもたちが、海の大きさ
や波の音や潮の香りに大興奮してい
ました。

期間中の食事の場面では、ホーム毎に
別れての徹底と、同じ方向を向く、パ
ーテーションを設置するなど、しつか
りと感染対策をした為、安心して美味
しい食事をとることが出来ました。

8月に入り近畿圏でコロナウイルスが
猛威を振るい出したことを受け、正直
中止も考えましたが、7月当初から企
画し、観光会社にバスをチャーターし、
なるべく他の人たちとの接触を少な
くするようなスケジュールを組んでも
らい、さらに子どもたちへも当然ながら
アルコール消毒とマスクの着用を徹
底することを約束し、行くことに決め
ました。

8月4日～6日、職員及び児童のほ
ぼ全員で三重県鳥羽市の千鳥ヶ浜へ、
「海への里帰り」に行つてきました。

2021 海への里帰り

児童指導員 玉田 周平

唯一の夏の思い出だつたかも…

初日はホテルの温泉や食事を堪能し、
特に夕食の時に注文した舟盛をホー
ム毎に出した時はその豪華さから、全
員から大歓声が上がっていました。
2日目はメインイベントの海水浴を堪
能し、男の子は真っ黒になるほど泳い
ました。

でいました。
3日目では鳥羽水族館とおやつタウ
ンへ行き、3日間の旅行を満喫してい
ました。



■里帰り支出報告（令和3年4月1日～8月31日）

収入	ひめゆり基金からの助成金	1,000,000 円
	愛染寮自己負担分(うち1,000,000円は 基金以外に篠志家からの寄付)	1,549,157 円
	合計	2,549,157 円
支出	海への里帰り（愛染寮）	2,549,157 円
支出内訳	宿泊費（1泊2食）	1,392,000 円
	貸切バス代及び通行料金等	679,920 円
	飲食代	382,342 円
	その他（入場料金、損害保険、お土産代等）	94,895 円
	合計	2,549,157 円

* 今回ひめゆり基金に2,793,250円の温かいご支援を賜りました。
ほんとうにありがとうございました。

子どもたちはこの夏一番の行事とい
うこともあり、制限の多い中でもめい
っぱいに楽しんでいたように感じます。
昨年度は「コロナの影響で実施出来な
かった夏の海への里帰りですが、帰つて
からも「海里楽しかった」という笑
顔で話す子どもたちを見ると、タイミ
ング的にリスクが無かつた訳ではない
ものの、全員無事に行って帰つて来て、
期間中もその後も、誰一人体調を崩す
者が出来なかつたのは、ひとえに皆様の
ご支援の賜物であること、愛染寮一同
深く感謝申し上げます。

●いこまごども園

いこまごども園では、新型コロナウイルス感染防止対策のため、従来の保護者参加の夏まつりは見送り、地蔵盆法要のみを行っています。園前道路の「ののさま」の前にテントを立て、紅白の幕や提灯で飾りつけ、お供えを並べます。法要には園児たち全員が参加し、年長組はテントの中、他のクラスは園舎の階段の所に並び、理事長先生を導師に地蔵盆法要を行います。法要の後、理事長先生は、いつも園児のみんなに優しく声をかけお話をしてくださいます。その日、子どもたちはお供えをいただいて帰ります。

●新しい形の愛染寮夏祭り

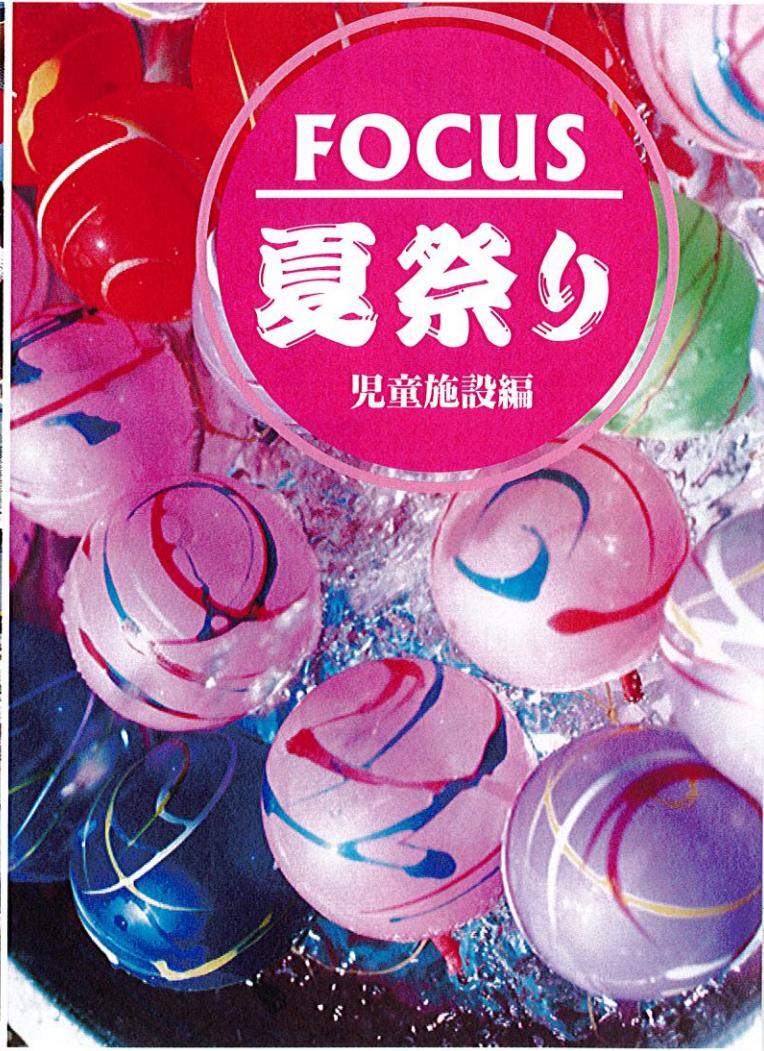
ようやく長い夏休みも終わり、今年の夏もひと段落したところです。毎年、愛染寮では子どもたちが楽しめるイベントとして、愛染寮内での夏祭りを行っています。例年であれば、愛染寮を巣立つた子どもたちも帰省をしてきて、在寮生・卒寮生・職員、そして法人の中間のみなさんと共に楽しめるイベントなのですが、残念ながら去年からはいつものような夏祭りができない状況です。

そんな中、少しでも子どもたちに祭りの雰囲気を楽しんでもらいたいと思い、今年はあて物屋台を行うことにしました。ぐじ引き・千本引き・わなげ・スーパー ボールすくいと



2021/07/17
あすかの保育園

FOCUS 夏祭り 児童施設編



●いこま乳児院での夏の遊び

今年の夏は、30℃を超える日が多く、『暑さ指数』を確認しながら、どんな夏らしい遊びが出来るかを決めていました。

2～3歳児は、日陰の多い森へ探索に行ったり、川遊びをしたりしました。川の冷たさに驚く児や、力二を見つけて喜ぶ姿が見られました。1～2歳児は、日よけにミストシャワーを付け、その下でのプール遊びをしました。プールに入らず、そばに置いたらいやバケツに水を映し、その中に繰り返し入れることを楽しん

4つの屋台を準備し、楽しんでもらいました。各屋台では、屋台担当の職員がそれぞれ子どもたちの好きな景品を準備して、大いに盛り上がりました。夕ごはんは、感染症対策の関係で屋台こそ出せませんでしたが、各ホームで好きな夏祭りメニューを調理する形で、一味違う屋台風ご飯を満喫しました。

夜には簡易位置上げ花火の予定でしたが、こちらは続く雨模様ゆえに延期せざるをえませんでしたが、お楽しみは取つておきましょう。

例年とやり方も全く違う形と言えども、これはこれで良い夏の思い出になつたのかな、と感じております。一日でも早く感染症が収まり、また卒寮生もみんながワイワイと楽しめる夏祭りを心待ちにしています。

でいました。

0～1歳児は、日よけの下で噴水の出るプールでの水遊びをしました。補助いすに座つて手を伸ばして噴水に触れたり、ハイハイで水の上をまたいだり、水に慣れると、プールの中に入つていつたりして初めての水遊びを満喫していました。

●いこま乳児保育園夏まつり

先日、保育園では夏まつりが開催されました。コロナ禍の為、昨年同様例年より規模を縮小して行いました。0～1歳児は、各保育室で氷を触つたり、お化けのお面を作つたりしました。2歳児は家から甚平を着て登園し、1クラスずつホールに出ておもちゃの金魚すくいや、氷あそび、ボールプールなどを楽しみました。

今年最大のお楽しみは、園長先生のお部屋でお土産をもらう事でした。色とりどりの風車から自分で好きな色を選び、うれしそうに「ふー」と吹く可愛い姿に、保育士も癒されました。コロナ禍で制限される事が多い毎日の保育の中、子どもたちにとつても保育士にとつても夏の思い出になつた夏まつりでした。

●極楽坊あすかこども園

令和3年7月17日に園内で実施しました。密集対策のため、2部制とし、模擬店も取りやめています。元興寺から辻村泰道副住職にお越し



08/22/2021 14:19

●あすかの保育園の夏まつり

今年度もコロナ対策のため、各クラス入れ替え制にして7月17日(土)に夏まつりを行いました。

大乗滝寺の住職(理事長)の読経の後、年長児さんの『ふれあい音頭』の盆踊りで始まりました。その後「ピンポン的あて」「ヨーヨーフリ」「うちわづくり」を保護者と一緒に楽しみました。各クラス20分程度ずつでしたが、「どれを釣ろうかな?」「うまく飛ばせるかな?」「当たつた!」「どこに貼ろうかな?」など、園庭やホールに子どもたちの楽しそうな笑い声が響いていました。コロナ禍の中、保護者の方と共に楽しいひと時を過ごせた夏まつり、来年こそはみんな揃つて開催出来たらいいなと思います。

●仔鹿園

夏祭りは、園門前のお地蔵様に理事長先生と一緒にみんなで手を合わせてから始まりました。コロナウイルスの影響で『夏まつりごっこ』は規模を縮小しましたが、子ども達は夏祭りおもいおもいに楽しみました。

いただき、園長と共に園のお地蔵様の法要を行いました。その後、旧飛鳥幼稚園の園庭に移動し、保育教諭による出し物、盆踊りを楽しみ、お下がりのお菓子をいただきました。

今年もなかなか出かける機会がない中、子どもたちは浴衣や甚平を着て保護者の方と一緒に参加し、夏まつりを楽しんでいる様子でした。

●150連発！延寿花火大会 やすらぎの杜 延寿

毎年ご家族様や地域の方々にご参加いただき賑やかに行つていただけた夏祭りですが、今年もコロナウイルス感染対策のため規模を縮小、時期を変更し秋祭りを開催することになりました。打ち上げ花火は去年断念しましたが8月25日に花火大会を行い、利用者様に楽しんで頂けることが出来ました。二年ぶりに打ち上がった花火に歓声が上がり、拍手をして喜ばれる利用者様もいらっしゃいました。赤や緑、白などの明かりに照らされた利用者様の横顔がとても綺麗で、職員にとつても素敵なひと時となりました。コロナ禍で外出やイベントが制限されている中、少しでも季節を感じながら思い出を作つていただけます。その後も取り組んで参ります。

●梅寿荘ディセンター夏祭り 梅寿荘ディセンター

梅寿荘ディセンターの夏祭りは8月5日と6日の2日間行わされました。

コロナ禍での開催に職員一同、食事の提供方法をどうするか？とても迷いました。それでも普段とは違う夏祭り独特の雰囲気を匂いや音を感じてもらう提供方法を取らせていただきました。

簡単なライブ演出ではございましたが楽しんでいただけたと思います。

食事だけでなく3時間程夏祭りのタイムスケジュールをとつていきましたので射的にコイン落とし、ヨーヨー釣りに綿あめなどの模擬屋台コーナーを楽しんでもらい、盆踊りにスイカ割りゲームそして最後の富くじタイムまで職員も一体となり今年の夏祭りを楽しませていただきま

●「コロナ禍での夏祭り」 老人総合福祉施設 あくなみ苑

今年のあくなみ苑の夏祭りは新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、例年より規模を縮小しご利用者と職員のみで行いました。近年、実行委員を悩ませていた夕立ちやゲリラ豪雨も

無く、よい天候に恵まれました。少しでも夏祭りの雰囲気を感じて頂く為、ご利用者に喜んで頂けるアイスクリームやフルーツ等を屋台で提供し食事を召し上がつて頂き、事前に職員が練習していった盆踊りを一緒に輪になります。

終盤にはあくなみ苑夏祭り恒例の花火を見て頂きました。今年は例年より花火の数を多くし打上げ、ナイアガラ花火も風や煙の影響を受けず綺麗に見て頂く事もでき、たくさんのご利用者の笑顔が見られたあくなみ苑の夏祭りでした。

●梅寿荘の夏祭り

梅寿荘

毎年、ご入居者の家族様、ボランティアの皆様、お世話になつてゐる近隣の方々の協力もと、盛大に行つてきました夏祭りがコロナ化で縮小となつて2年目を迎えるました。

それでも屋台にくじ引き、ボウリング大会とご入居者の笑顔満開の夏祭りでした。

● a memory from summer of Juraku ディセンター寿楽

今年も夏の恒例行事である、スイカ割りと夏祭りを8月に開催致しました。今年のスイカは【完全特別別注生産の二足歩行型】で、登場と同時にご利用者の目が点に割られまいと逃げ回る二足歩行のスイカがなんともシユールで、ご利用者や職員からの笑いを誘つていました。もちろん本物のスイカも用意してあり、おやつの時間に美味しく頂きました。

1日限りの夏祭りでは、特別食の提供を致しました。メニューはおでん、ミニお好み焼き、かやくご飯、豚汁、振舞いドリンク（ノンアルコールビール、ノンアルコール酎ハイ、ラムネ、ソフトドリンク）です。食事もドリンクも大変ご好評を頂きました。

レクリエーションでは昔懐かしの遊び屋台で、皆様時間を忘れて楽しんでおられました。

FOCUS

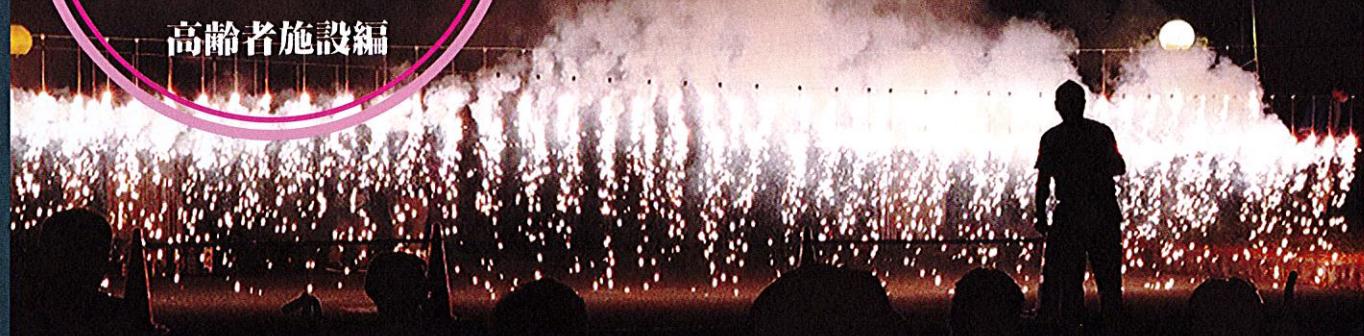
夏祭り

高齢者施設編

皆が楽しみにしている

“夏祭り”

コロナ禍のなかで感染対策を講じ
様々な制約もある中、今年も開催されました。



あくなみ苑



延寿



梅寿荘デイセンター



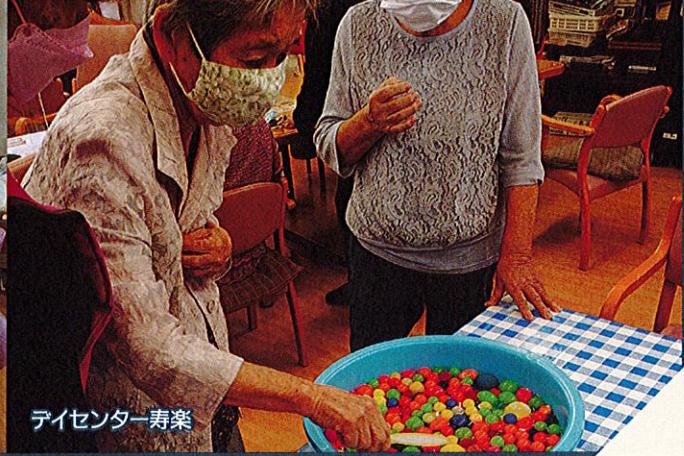
梅寿荘



延寿



デイセンター寿楽



デイセンター寿楽

PCR検査機導入しました!

検査技師による
検査を実施

ワクチン接種完了

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、法人の高齢者施設部門、愛染寮・いこま乳児院でこの度PCR検査機器を5台購入し、7月から毎月定期的に検査技師により職員のコロナウイルスの検出検査を行っています。また、9月時点で高齢者施設のご入居者、法人各施設の職員のワクチンの接種を済ませたことをご報告いたします。

今後も検査とともに感染防止対策をしっかりとおこない安心して施設利用をしていただけるよう取り組んでまいります。

《法人の新型コロナウイルス感染状況 令和2年4月1日～令和3年9月28日現在》

児童施設・・・園児5名（無症状、回復済）職員2名（回復済）
高齢者施設・・・ご利用者3名（回復済）職員3名（回復済）
以上、ご報告いたします。



唾液採取キット

令和3年度 法人役員会等報告（4月～9月）

【第一回理事会】 令和3年6月10日(木) 桃李館研修室

- 第1号議案 令和2年度事業報告並びに決算関係書類について承認を求める件
第2号議案 定款変更申請の承認を求める件
第3号議案 諸規程改正について承認を求める件
第4号議案 理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告の件
第5号議案 任期満了に伴う評議員の選定の為の委員会召集の件
第6号議案 評議員候補者の推薦について承認を求める件
第7号議案 任期満潮に伴う理事、監事、会計監査人の選任について評議員会に推薦する候補について承認を求める件
第8号議案 令和3年度定期評議員会を招集する件

【評議員選定等委員会】 令和3年6月11日(金) 生駒市商工会議所会議室

評議員候補者名簿に基づき、各人ごとに審議評決し、次期評議員を選定する

【定期評議員会】 令和3年6月28日(月) 西大寺興正殿

- 第1号議案 令和2年度事業報告並びに計算書類の報告
第2号議案 定款変更申請承認の件
第3号議案 理事長並びに業務執行理事の業務執行状況報告の件
第4号議案 理事、監事の選任の件

【臨時評議員会】 令和3年6月28日(月) 西大寺興正殿

- 第1号議案 新評議員会の議長並びに職務代行者選任の件

【第二回理事会】 令和3年6月28日(月) 西大寺興正殿

- 第1号議案 理事長並びに業務執行理事選任の件

顧問	顧問	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	監事	監事	理事	理事長	総裁	宝山寺福祉事業団役員名簿							
森辻宮	若山宮堀福速新中谷辰才上阿	上谷	安中	辻	辻佐	祖	未井	辻	大	森	辻	森	森	森	森	森	森	森	森	森	令和3年6月28日	
村本	原本本内井水田村口巳村司部	森川	井本	村	村	伯徳	松上	村	矢	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	泰實	
宏泰隆	邦純しお重寿一	政眞	永泰	健義	宏	泰里	俊	お保	泰	森	森	森	森	森	森	森	森	森	森	泰	泰實	
範善雄	弘弥子典忠夫郎悟誠行理照士	廣明	一勝	聰子	源む喜太	圓																◆編集後記

約1か月間にわたって開催された東京オリンピック、パラリンピックが終わり、オリパラロスの私です。いろいろ課題もあった中ですが、選手の皆さんのが奮闘は素晴らしいですね。有難うございました♪たくさんの方がパラスポーツの魅力にはまつことでしょう! (森本)